

作成日 2023年 12月 19日

安全データシート

1. 化学品および会社情報

化学品の名称	2,4-ジメチル-1H-ピロール (2,4-Dimethyl-1H-pyrrole)
製品名	2,4-ジメチルピロール
製品コード	F-016409
SDS整理番号	ZC23075-01
会社名称	善ケミカル株式会社
住所	東京都台東区台東2-30-2 善ビル3階
電話番号	03-3839-5861
FAX番号	03-3839-5877
緊急連絡電話番号	03-3839-5861

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性	引火性液体	区分4
健康に対する有害性	急性毒性(経口)	区分4
	急性毒性(経皮)	区分4
	急性毒性(吸入)	区分4
	皮膚腐食性/刺激性	区分2
	眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分2A
	特定標的臓器毒性(単回ばく露)	区分3(気道刺激性)
環境に対する有害性		該当区分なし

注) 上記のGHS分類で区分の記載がない危険有害性項目については「分類対象外」、「区分に該当しない」または「分類できない」に該当する。

GHSラベル要素

絵表示またはシンボル



注意喚起語

警告

危険有害性情報

H227 可燃性液体
H302 飲み込むと有害
H312 皮膚に接触すると有害
H315 皮膚刺激
H319 強い眼刺激
H332 吸入すると有害
H335 呼吸器への刺激のおそれ

注意書き

【安全対策】

P210 熱、高温のもの、火花、裸火および他の着火源から遠ざけること。禁煙。
P261 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避けること。
P264 取扱後は手や顔をよく洗うこと。
P270 この製品を使用するときに、飲食または喫煙をしないこと。
P271 屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。
P280 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。

【応急措置】

P370+P378 火災の場合: 消火するために粉末消火剤、泡消火剤、二酸化炭素を使用すること。
P301+P312 飲み込んだ場合: 気分が悪いときは医師に連絡すること。
P330 口をすすぐこと。
P302+P352 皮膚に付着した場合: 多量の水や石けんで洗うこと。
P312 気分が悪いときは医師に連絡すること。
P332+P313 皮膚刺激が生じた場合: 医師の診察/手当てを受けること。
P362+P364 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。

- P304+P340 吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
- P312 気分が悪いときは医師に連絡すること。
- P305+P351+P338 眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
- P337+P313 眼の刺激が続く場合: 医師の診察/手当てを受けること。
- 【保管】
- P403+P233 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。
- P405 施錠して保管すること。
- 【廃棄】
- P501 内容物、容器の廃棄を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

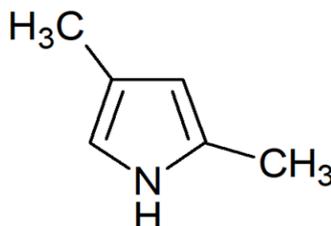
GHS分類に関係しないまたはGHSで扱
れない他の危険有害性 情報なし

重要な徴候および想定される非常事態の
概要 情報なし

3. 組成および成分情報

単一物質・混合物の区別	単一物質
化学名または一般名	2,4-ジメチル-1H-ピロール (2,4-Dimethyl-1H-pyrrole)
慣用名または別名	2,4-ジメチルピロール
CAS番号	625-82-1
分子式 (分子量)	C ₆ H ₉ N (95.145)

構造式または示性式



成分および濃度または濃度範囲
官報公示整理番号 98.5%以上(GC)

化審法: —
安衛法: —

4. 応急措置

吸入した場合	被災者を新鮮な空気のある場所へ移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
皮膚に付着した場合	気分が悪いときは医師に連絡すること。 ただちに汚染された衣類をすべて脱ぐこと、または取り去ること。 皮膚を多量の水と石けんで十分に洗うこと。
眼に入った場合	気分が悪いときは医師に連絡すること。 水で15分以上注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
飲み込んだ場合	気分が悪いときは医師に連絡すること。 口をすすぐこと。
応急措置をする者の保護に必要な注意事項	気分が悪いときは医師に連絡すること。 適切な保護具を着用すること。

5. 火災時の措置

適切な消火剤	粉末消火剤、泡消火剤、二酸化炭素
使ってはならない消火剤	水(火災を拡大し危険な場合がある)
火災時の特有の危険有害性	燃焼や高温により分解し、有毒なヒュームを発生するおそれがあるので注意すること。
特有の消火方法	関係者以外は安全な場所に退去させること。 消火作業は風上の安全な地点から行い、周囲の状況に応じた適切な消火方法を用いること。 周辺火災の際は危険でなければ火災区域から容器を移動すること。
消火活動を行う者の特別な保護具および予防措置	消火作業の際は、必ず保護具を着用すること。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具および緊急時措置	個人用保護具を着用すること。 漏出場所の風上から作業を行い、風下の人を退避させること。
------------------------	--

環境に対する注意事項 封じ込めおよび浄化の方法および機材	漏出した場所の周辺にロープを張るなどして関係者以外の立入りを禁止すること。 環境中に放出しないこと。 ウエス、乾燥砂、土、おがくずなどに吸収させて回収すること。 大量の流出には盛土で囲って流出を防止すること。 付着物、回収物などは関係法規に基づき速やかに処分すること。
二次災害の防止策	付近の着火源、高温体などを速やかに取り除くこと。 着火した場合に備えて消火用器材を準備すること。 火花を発生しない安全な用具を使用すること。

7. 取扱いおよび保管上の注意

取扱い	技術的対策	屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。 適切な保護具を着用すること。
	安全取扱注意事項	漏れ、あふれ、飛散しないよう注意し、みだりに蒸気を発生させないこと。 炎および高温のものから遠ざけること。 静電気対策を行うこと。 防爆型の電気機器/換気装置/照明機器を使用すること。 取扱い後は手や顔など、露出した部分をよく洗い、うがいをする事。 蒸気やエアロゾルが発生する場合には、換気、局所排気を用いること。 できれば密閉系で取扱うこと。 この製品と身体とのあらゆる接触を避けること。
保管	安全な保管条件	容器を密閉し、冷暗所に保管すること。 直射日光や火気、熱、混触危険物質などから離して保管すること。 施錠して保管すること。
	安全な容器包装材料	法令の定めるところに従うこと。

8. ばく露防止および保護措置

管理濃度 設備対策	設定されていない。 この物質を取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。 装置、機器の密閉化あるいは局所排気装置を設置すること。	
保護具	呼吸用保護具 手の保護具 眼、顔面の保護具 皮膚および身体の保護具	防毒マスク、簡易防毒マスク等。 保護手袋 保護眼鏡。状況に応じ保護面。 保護衣。状況に応じ、保護長靴。

9. 物理的および化学的性質

物理状態	液体
形状	透明
色	無色
臭い	データなし
融点/凝固点	データなし
沸点または初留点および沸点範囲	165 ~ 167°C(1,013 hPa)
可燃性	データなし
爆発下限界および爆発上限界/可燃限界	データなし
引火点	113°C(密閉式引火点試験)
自然発火点	データなし
分解温度	データなし
pH	データなし
動粘性率	データなし
溶解度	
[水]	データなし
[その他の溶剤]	データなし
n-オクタノール/水分係数(log値)	データなし
蒸気圧	データなし
密度および/または相対密度(g/ml)	0.92 ~ 0.93(20°C)
相対ガス密度	データなし
粒子特性	データなし

10. 安定性および反応性

反応性	高熱で空気と反応して爆発性混合物を生じる。
化学的安定性	適切な条件下においては安定。
危険有害反応可能性	特別な反応性は報告されていない。
避けるべき条件	裸火
混触危険物質	酸化剤

危険有害な分解生成物

二酸化炭素、一酸化炭素、窒素酸化物

11. 有害性情報

急性毒性	経口	データなし
	経皮	データなし
	吸入: ガス	データなし
皮膚腐食性/刺激性		データなし
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性		データなし
呼吸器感作性		データなし
皮膚感作性		データなし
生殖細胞変異原性		データなし
発がん性		データなし
生殖毒性		データなし
特定標的臓器毒性(単回ばく露)		吸入した場合、呼吸器への刺激のおそれ。
特定標的臓器毒性(反復ばく露)		データなし
誤えん有害性		データなし

12. 環境影響情報

生態毒性		
魚類		データなし
甲殻類		データなし
藻類		データなし
残留性・分解性		データなし
生物蓄積性(BCF)		データなし
土壤中の移動性		
	n-オクタノール・水分配係数	データなし
	土壤吸着係数(Koc)	データなし
	ヘンリー定数(PaM ³ /mol)	データなし
オゾン層への有害性		データなし

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物	廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。 廃棄に際しては適切な保護具を着用すること。 都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共 団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理すること。
汚染容器および包装の安全で、かつ、環境 上望ましい廃棄、またはリサイクルに関する 情報	容器は洗浄してリサイクルするか、関連法規制ならびに地方自治体の基準に 従って適切な処分を行うこと。
	空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14. 輸送上の注意

国際規制		
	国連番号	該当なし
	国連分類	国連の分類基準に該当せず。
その他の注意		輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み 込み、荷崩れの防止を確実にすること。
		重量物を上積みしないこと。
緊急時応急措置指針番号		該当なし

15. 適用法令

消防法	第4類 第二石油類 危険等級Ⅲ 非水溶性
-----	----------------------

16. その他の情報

主な参考文献	ウェブサイト "PubChem" (2023/12/18 アクセス) 安全データシート "2,4-Dimethylpyrrole", 東京化成工業株式会社 2022/03/19 改訂版 安全データシート "2,4-Dimethylpyrrole", Sigma-Aldrich Japan G.K. 2023/12/18 改訂版
--------	--

記載内容の取扱いについて

記載内容は、現時点で入手できる資料、情報、データに基づいて作成しておりますが、物理化学的性質、危険・有害性等に関しましては、いかなる保証をなすものではありません。注意事項は通常の取扱いを対象としたものであって、特殊な取扱いの場合には、新たに用途・用法に適した安全対策を実施の上、ご利用ください。

改訂履歴 2023年12月19日 作成